

最上地区の県立高校再編整備計画＜第2次計画（骨子案）＞に係る地域説明会記録要旨 【金山町会場】

- 1 日 時 令和2年9月9日（水）19：00～20：10
- 2 場 所 金山町中央公民館
- 3 出席者 地域の方々47名
県教委 片桐教育次長、生島高校改革推進室長、外 事務局職員5名
- 4 内 容 室長から説明後、質疑応答

5 質疑応答概要

（質問・意見）

- ① 夜間定時制を昼間にして新庄南高校の校舎・施設を使用するという計画であるが、定時制のクラス数を考えると校舎に空きが生じることが想定されるが、その見通しはどうか。
- ② 「分校を本校化する」とはどういうことか。また、生徒数に関係なく検討するということか。
- ③ 少子化に拘わらず、私立新庄東高校は定員240名を減らしていない。県の計画は新庄東高校の定員が減らないという前提での再編なのか。県が私立高校に対して意見できない立場だということはあるが、私立の定員は変わらず、県立だけ削減するのか。

（県教委）

- ① 現在、新庄南高校には第1棟～第4棟があるが、第2棟は耐震性に問題があるため使用しておらず、今後も使用する予定はない。第1棟の管理棟は耐震補強をしているがやや老朽化が進んでいる。よって、昭和50年代に建設され、耐震性に問題がない第3棟、第4棟の2つを改修して使う計画である。
- ② 本校化されれば校長が配置される。本校化するかどうかも含めて検討することになる。
- ③ 県は私立高校の経営について言える立場にない。私立高校も県立高校とともに教育を支えており、ともに切磋琢磨していきたいと考えている。入学定員については、私立高校と公立高校との「山形県公私立高等学校協議会」において、毎年意見交換を行っている。

（質問・意見）

- ① 新庄市内の普通科高校が1校になり、難関大学を志望する生徒だけでなく、様々なレベルの生徒が在籍することになると予想される。その場合、入学者選抜は一つの科として全員共通で選抜となるのか、複数の科として分けて行うのか。入学者選抜は大きい問題であり、様々な生徒がいることを考え、配慮をお願いしたい。
- ② 分校の魅力化・活性化策について、「実施後においても、入学者に増加傾向が見られない場合は、設置主体を含めた学校の在り方について、地元自治体と改めて協議する」とあるが、「設置主体を含めた検討」とはどういうことか。県立から別の形への移行を模索するのか。

(県教委)

- ① 統合校に今より広い学力層が入学することは十分予想される。設置学科が普通科だけとなると、入学者選抜は全員一緒である。統合校は、規模を確保して、進学・公務員・就職等の幅広い進路に対応するため、多様な選択科目を用意し、学校内で多様な選択肢を用意する。学力層が広がることで今より選択肢を用意する必要があると考えている。例えば、現在の普通科探究コースを探究科にして別に募集するという方法も考えられる。来年度から「教育基本計画」を検討するが、その委員には大学教授等の有識者、地元新庄市の関係者、中学校校長等がメンバーとして想定されており、その方々からの意見を聞きながら、学科の在り方を検討したい。
- ② 設置主体を含めた検討とは、県立ではなく町立もありうるということである。従来は定員の2分の1を2年連続して下回ると募集停止ということであったが、今回基準を改め地域連携協議会を設置した。地域連携協議会において学校の魅力化・活性化策を検討し、令和2年度から3年間実施し、その後入学者の増加が見られない場合は、町と改めて協議することになる。町が町立での経営を望むのであれば、それも選択肢の一つになりうる。

(質問・意見)

- ① 令和2年度から設置されている地域連携協議会の人数・構成メンバーはどうなっているのか。
- ② 地域連携協議会は3年間の取り組みだが、どれくらいの予算措置をしているのか。
- ③ 既に活性化策を実施しているとすれば、その例を教えてください。
- ④ 小規模校はこれまでも様々工夫してきた。そこに新たに活性化策を加えるために、県教育委員会から思い切ったアドバイスをしてほしい。また、協議会の進捗状況や取り組み等を、広く住民や県民の方に発信するのは県の役割である。広く発信してほしい。

(県教委)

- ① 地域連携協議会は、学校が所在する自治体が設置し主体となって運営しているため、人数・構成は、基本的に各自治体と学校に任せている。県としては有識者を入れるようお願いしている。メンバー構成は、大学の教員、町部局、町の教育委員会、商工会等の産業界、地元中学校長、PTA関係者が多いようだ。
- ② 運営資金として、県から10万円を補助している。そして町からも10万円を出していただくようお願いしている。
- ③ 本年度は協議会を立ち上げ、具体的な活性化策を練っているところである。例えば、金山町は中高一貫教育、最上町は振興会、遊佐町ではサポートする会があり、既に様々取り組んでいる。それをベースにして、中学生にとって魅力化を図ることになる。県としては町に丸投げしている訳ではなく支援をしている。具体的な方法として、例えば「金山タイム」のように地域の教育資源を生かす方法や、町づくりの視点を盛り込むなど、様々な方法があると思われる。
- ④ 県も、町も情報発信に努める必要があると認識しており、意見として頂く。

(質問・意見)

- 現在金山町の地域連携協議会に携わっている者として状況を簡単に説明したい。連携協議会を7月に立ち上げ、金山校の同窓会から入っていただき、会の代表を決めた。これまで、小国町の小国高校と教育委員会、そして遊佐町の遊佐高校と教育委員会を訪問し、先進的な取り組みを学んできた。また、オンラインではあるが地域未来留学フェスタに参加した。

その連携協議会を進めるにあたり目標・ゴールはどこにあるのかお聞きしたい。つまり、金山校の存続の見通しが立つためには、従来は20名が目安だったが、何名の入学が必要なのか具体的な数字を伺いたい。また、何名を超えると本校になれるのか。希望が持てるような目標を聞きたい。

(県教委)

- 目安としては、再編整備基本計画に示しているように、目安は20人でありそれは変わらない。再編整備に関する基本方針を改定し、地域魅力化協議会を設けているわけであるので、まずは学校の魅力化・活性化の検討・実施をお願いしたい。

以上